

何か話し合ひながら、二匹か三騎だつたかもそれも解らない。

行き過ぎる時俺を目に止めたか何うかも知らない。

俺は寸時立ち止つて避けてゐたから、俺は暫らく無言で歩るいた。

後で氣が付いたが、彼奴等は次の驛で降りた刑事か、犯人飛び降りの報知を受けとつた巡査かだ。血に塗れて、負傷に咽いてゐるか、或は氣絶してゐるかと思像しながら、現場を臨檢しに行きよるのだ。

轢死人があつた場合夜なんか、馬で蹴散らかすのが彼等の習慣かも知れない。

提灯も持つてゐたわいと俺は思つた。

さて俺は日本の何の邊を歩るいてゐるのか。

片田舎らしくはある。

俺は足を早めた。

半里も歩るいた頃やつと人家に辿り付いた。

兩側に家がならんでゐる。